

「うりょに読もうー」コンと「HAPPY NEWS」

児童・生徒部門を一本化

今年、4回目を迎える「いっしょに読もう！新聞コンクール」（日本新聞協会主催）の募集内容が、発表されることになった。これまで、別々に作品を募集していた「HAPPY NEWS」の児童・徒部門を吸収して、新たに「HAPPY NEW 賞」を設け、さらに門戸を広げる。

「いっしょに読もう！新聞コンクール」は、同じ記事を読んだ家族らの意見も取り入れて感想文を書き上げるため、家庭フォーカス（家庭におけるNIE）も有効とされている。知名度が高まるにつれ

全国的に応募数も増え、昨年は、46都道府県と海外の小中高・高専生から2万5864点（前年2万3298点）が集まつた。道内の応募総数は890点で、この中から優秀賞2点、奨励賞8点が選ばれた。

募る「HAPPY NEW S」は2004年度に創設された。12年度は全国から過去最高となる1万5935点の応募があり、朝日新聞を読んだ広島県の女性(27)の感想文が大賞に輝いたほか、24作品が入賞した。道内からは小樽市立錢函中函館稜北高が、学校ぐるみでの取り組みに与えられる特別賞を受賞した。寄せられた作品の一部は毎年、「心がぽかぽかするニユース」と題して、文藝春秋社から出版されている。

応募数は年々増える傾向にあるものの、増加分の半は、小中高校からの学年単位の応募による。12年度の場合は学校応募が約9割を占め、期待していた20代、30代はほとんどないのが実情。今回の統合は新聞協会の事業見直しの一環として検討が進められたが、応募している学校の多くがNIE活動の環として取り組んでいることから、似た趣旨の読者ングルとして一本化することになった。

NIE 実践奮闘記

この5年間、日高町に
縁のある人をゲストティ
ーチャーとして活かした
道徳の授業実践を重ねて
きた。生徒が先輩の生き
方に触れ、じっくり考え
る機会を設定すること

冰美樹

日高町立門別中教諭



ル「えほんのとびら」の方々、本校の保護者など
多數だ。

人選には新聞、テレビ、本での情報収集が欠
かせない。この人だ!と思つた方には、生徒の実

これまで来ていただい
た方は、「タマゴマンは
中学生」の作者坂本勤さ
ん、富士メガネ会長の金
井昭雄さん、北海道新聞
「みらい君の広場」の担
当者、読み聞かせサーク

態を踏まえた授業プランを提案する。協力を得られた場合は打ち合わせを重ねる。皆さん快く力を貸して下さった。本当にありがとうございました。実践の中では、新聞へ

つくつてきた。目を輝かせて授業に参加する姿を目の当たりすることで、より価値ある授業をしたいという思いを強くした。

がどうございました」
この取り組みを論文に
まとめ、道徳教育振興を
目的とする昨年度の「上
廣道徳教育賞」に応募し
た。教師としてだけでは
なく、大人として子ども

出会いでつくる心の成長

聞を読むようになった生徒もいる。情報発信もま

想ってくれていると感じ
る授業でした。厳しい言

本校は全校生徒65人の小規模校である。生徒指導上の大きな問題はないが、生徒は狭く希薄な人間関係の中で、心揺れ動く多感な思春期を過ごしている。

そんな生徒にとつてゲストティーチャーとの出会いは、社会への目を開き、生き方を考える貴重な機会となる。

ル「えほんのとびら」の方々、本校の保護者など多數だ。

聞を読むようになった生徒もいる。情報発信もまた、社会へ目を向ける契機となつた。

想つてくれていると感じ
る授業でした。厳しい言
葉でも裏にかくされた優
しい気持ちが読み取れま
した。でもそれは2年生
の私では無理で、3年生
になつてから分かったこ
とです。私が成長できた
理由の一つにも先生の道

学校・高校の部で佳作をいただくことができた。大人の意識が変われば子どもも変わる。大人の一人として果たすべき責任をしつかり意識しながら、今後も生徒にとつてより良い出会いを創出していきたい。

推進協・道NIE研

2

の小中高、高専からの応募を「いつしょに読もう！新聞コンクール」に取り込み、今までの最優秀賞3点、審査員特別賞1点などに加え、「HAPPY NEWS賞」1点を新設する。一方、「HAPPY NEWS」は一般部門だけを残し、若者層などさりに応募を増やす努力を続けることにした。

本年度の「いつしょに読もう！新聞コンクール」は、5月の連休明けから募集を開始し9月13日が締め切り日。地方と中央の審査を経て、NIE月間に設定されている11月に最終結果が発表される。

事務局（北海道新聞NIE推進センター）☎011・210・5802。

記事データベース活用

挑戦しよう! (下)

情報を見極める目を育てるため、子どもたちによるデータベース検索を授業に取り入れる学校もある。広島県安芸高田市教委は、地元紙の中国新聞と協定を結び市内の全19小中学校に導入し各校が活用を進めている。

情報リテラシー教育

同市立吉田中は国語、社会、技術科などの学習に同社の記事データベースを取り入れており、昨年6月の国語の授業では、「わかりやすく説明しよう」観点を

して検索させた。生徒は操作に慣れるとすぐに自分で思いついたキーワードでも調べ始め、「古い情報も探せるんだね」「たくさんの記事がヒットするのはすごいい」と盛り上がったという。授業を成功に導いたのは、検索のテーマをあらかじめ定めた点だ。生徒はまず東日本大震災やプロ野球広島カープといったジャンルに狙いを定め、知恵を絞り、運営した。

「元気が出るニュースを探す」をテーマに設定。まず「勇気、元気支える」などをキーワードとして例示担当の村上憲宗教諭は、

夢中で検索し、授業を終えるのが大変だったほど。新規には事件や事故だけでは記事を切り抜きの形のPDFで読ませた。重ねて、「新聞に掲載された内容だからといって正しいとは限らない」とも指導している。

データベースの導入に際しては、デーティアリテラシーの向上が狙いだ。「インターネット上の他の情報は違う、客観的な視点でとらえていることを知らせたかった」と村上教諭は言

テーマ決め生徒が検索

決めて書く」(光村図書)の中で、情報収集の一環として1年生32人がコンピュータを使い検索した。

担当の村上憲宗教諭は、「元気が出るニュースを探す」をテーマに設定。まず「勇気、元気支える」などをキーワードとして例示

つてキーワードを考えた。その結果、何十件もの記事がヒットすると喜びや達成感が生まれる。「みんなたかった」と村上教諭は言

つてキーワードを考えた。その結果、何十件もの記事がヒットすると喜びや達成感が生まれる。「みんなたかった」と村上教諭は言

いつ方や4コママンガ、パズルといった、紙面の面白さを引き立てる要素を紹介した。記事を基にした討論も提案している。

2、3巻は全章に活用できる教科を示しているほか全国の実践教諭のアイデアも紹介してお

う。授業では、新聞の情報を保証するため、記事を切り抜きの形のPDFで読ませた。重ねて、「新聞に掲載された内容だからといって正しいとは限らない」とも指導している。

データベースの導入に際しては、デーティアリテラシーの向上が狙いだ。「インターネット上の他の情報は違う、客観的な視点でとらえていることを知らせたかった」と村上教諭は言



村上教諭(左)の指導で、生徒がデータベースを使った

安芸高田市立吉田中の授業=中国新聞社提供

くろう」は活用編。効果的な写真

遊びながら知識増やそう



「なるほど新聞活用術」刊行

新聞を活用した授業研究している

業が増えている一方で、購読している家庭は減り「授業で使っても戸惑う子どもも多いはず。これまでのノウハウを生かし、どうやつたら新聞で面白く遊べるかを提案したつもりです」と、編集を担当した同社の佐々木幹子さんは話している。

1巻「新聞まるごと大かいぶく」は基礎知識をまとめた。ニュースは第1報のほか解説、続報など多様なスタイルで展開することを紹介。経済面やスポーツ面などの特色にも触れている。

「新聞をつかってことばをさがす」と題した2巻は、記事に頻出する英字の略語、故事成語、数字などを解説し、資料を使って自ら調べる方法も書いている。

3巻「新聞をつかって記事をつ

り、道内からは矢澤研・札幌市立三角山小教諭(現在は同市立北九条小勤務)が登場している。記事の提供や取材には毎日新聞が協力。監修の曾木さんは、東京都小学校視聴覚教育研究会研究推進副委員長を務める小学校教諭で、子どもとメディアの関わりを研究している。

手軽な教材 記事ワークシート



ワークシートを基に話し合う
中央中の生徒たち。高橋教諭
(右奥)も耳を傾けていた

継続、評価で生徒に励み

ここ数年、多くの新聞社が記事を使ったワークシートを製作している。専用ウェブサイトを通じて使うものや、定期的にデータが送られるものなどさまざまだが、手軽に入手でき、授業のヒントになる。NIEの入り口として役立ちそうだ。

■札幌市立中央中

北海道新聞がホームページで毎週アップしている「道新でワークシート」の筆者、札幌市立中央中の高橋伸教諭は2月下旬、1年3組の国語科の授業で「バズセッション」を行った。自らの考えをまとめ、時問を決めてグループで話し合い、合意を形成して報告

する学習だが、こうした活動の経験がない1年生のため、まずワークシートの設問に沿って練習した。使ったのは、高橋教論のほか道内の国語科教論5人が執筆し、昨年発行した「道新でワークシート」活用ガイドブック」に収録した1枚。2014年度に着工する市電の新しい軌道について、従来の車道中央で軽い場所で往來する者

「世の中にはいろいろな考え方があるとあらためて分かつた。新聞から、違う世代の意見を知ることができるんですね」

認して全校生徒分を印刷、解答例も作つてある。昨年度からは総合学習の一環として、学級担任がシートの解答を評価している。

活動を始めた国語科の岡部泰子教諭は、個々の生徒の解答へきめ細かく指導や助言をしてきた。表現力が向上するだけでなく、自らの考えを書く問い合わせが多いため、生徒の変化を

作成できるので、どんな学校でも活用しやすい」と横田は語る。関教諭は言う。

する学習だが、こうした活動の経験がない1年生のため、まずワークシートの設問に沿って練習した。使つたのは、高橋教諭のほか道内の国語科教諭5人が執筆し、昨年発行した「道新でワーケシート」活用ガイドブックに収録した1枚。2014年度に着工する市電の新しい軌道について、従来の車道中央ではなく歩道寄りに敷設すると報じた記事と、それに対する市民の賛否をまとめた記事を取り上げている。

同教諭の狙いは、話し合いで結論を出すことではなく、社会には多様なものの

ほか道内の国語科教諭5人が執筆し、昨年発行した「道新でワーケシート」活用ガイドブックに収録した1枚。2014年度に着工する市電の新しい軌道について、従来の車道中央ではなく歩道寄りに敷設すると報じた記事と、それに対する市民の賛否をまとめた記事を取り上げている。

同教諭の狙いは、話し合いで結論を出すことではなく、社会には多様なものの

が、「世の中にはいろいろな考え方がある」とあらためて分かつた。新聞から、違う世代の意見を知ることができるんですね」

高橋教諭は「シートは生徒が一人で学習するためではなく、教師へ授業案を提示する目的で作成している」と言う。「授業で教師のサポートを得ながら記事を読み続けるうちに、生徒は伸びびしながらも楽しんで新聞を手にするようになるはず。客観的事実を読み取つたり、それを根拠として話す力もつく

認して全校生徒分を印刷、解答例も作っている。昨年度からは総合学習の一環として、学級担任がシートの解答を評価している。活動を始めた国語科の岡部泰子教諭は、個々の生徒の解答へきめ細かく指導や助言をしてきた。表現力が向上するだけでなく、自らの考えを書く問い合わせが多いため、生徒の変化や授業だけでは分からぬ意外な一面が見える。「小中学校より生徒との関わりが少ない高校では、一人と向き合う効果ももたらす」と言う。

作成ができるので、どんな学校でも活用しやすい」と横関教諭は言う。

課題は、シート活用が新聞を読むことは直結しない点だ。岡部教諭は、自分が毎日一つ記事を選んで話題の背景や分析を要約し、感想などを書いて生徒に配布する活動もしてきたが「教師が提示した記事は読むようになつても、自ら新聞を手にする行為へはつながっていない」と感じている。横関教諭も「一人で読むには紙面の構成やルールなどをあらためて教える必要がある」と話している。

編集後記

○…20～30代の先生に取材していると、しばしば「生徒には、無理に〇〇をさせたくないんですよ」という言葉を聞く。〇〇の内容は部活動だったり、勉強だったり、いろいろだ。一見子どもの意思を尊重しているかのように聞こえるが、実はこのフレーズ、クセモノだと思う。

○…社会に出たら、やりたくないことやできないことだけだ。「だからこそ、子どものうちには自由にさせてあげたい」という思いは理解できるが、準備もなく困難にぶつかった時の戸惑いは、どんなに大きいことだろう。

○…苦手なものに立ち向かう。努力しても報われないことがあると知る。こうした訓練は、子どもたちの未来にちゃんと効くはずだ。人の精神は柔らかい。痛みを吸収しながら、強勒になる。だから「心が折れる」なんて言葉も、大人は安易に使っちゃいけない。(り)

■札幌静修高

何より大切なのは、取り組みを継続することと、回収したシートを教師が必ず評価することだ。3年

◇「道内高校新聞ナウ」
は休みます。

をさせた。子どもたちは記事の情報を基に、「高齢者は市電の乗り降りが楽になる」「タクシー運転手は停車しにくくなると書いてある。生活がつかづいてある。

「朝読書の時間」に全校で読売新聞のワークシートを取り組んでいる。2010年に1年全8クラスでスタート、翌年からは校務の体制を整えて全校で

担任の横関寛大教諭は「評価しフィードバックすることで、子どもたちはやりがいを見いだすはず。遅刻してきた生徒も休み時間に解答へ、自主的に提出

「朝読書の時間」に全校で読売新聞のワークシートを取り組んでいる。2010年に1年全8クラスでスタート、翌年からは校務の体制を整えて全校での取り組みとした。

現在は、教務部の図書館担当教諭が毎週電子メールで各学年ごとにワークシートを送り、各学年で取り組んでいます。この取り組みは、高齢者は市電の乗り降りが楽になる」「タクシー運転手は停車しにくくなると書いてある。生活がかかつている人の声を尊重すべきだ」と意見をぶつけ合った。

担任の横関寛大教諭は「評価しフィードバックすることで、子どもたちはやりがいを見いだすはず。遅刻してきた生徒も休み時間に解答し、自主的に提出してきます」